

SMFGのベンチャー企業支援の取組について

～「イノベーションを支えるSMFG」～

2016年10月17日・18日

LEAD THE VALUE

1. SMFGのベンチャー企業支援の取組について P. 3
2. 「Incubation & Innovation Initiative (III:トリプルアイ)」、
「未来2017」について P.16
3. SMFGにおけるIPO支援について P.24

1. SMFGのベンチャー企業支援の 取組について

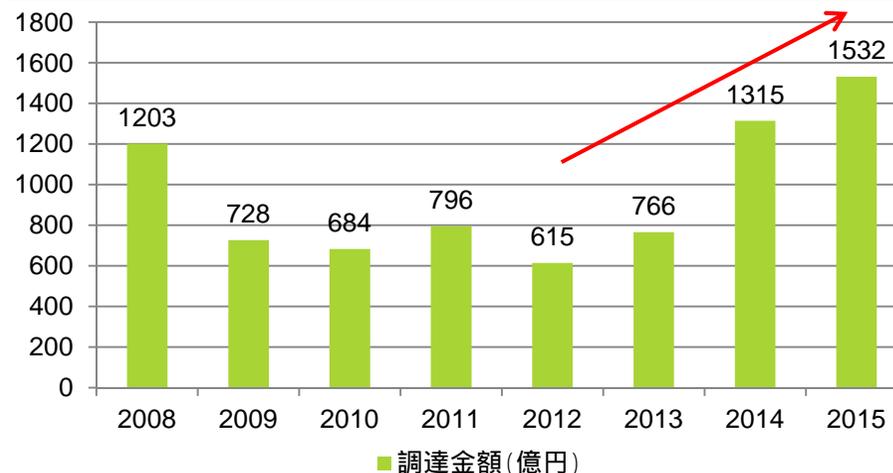
日本におけるベンチャー企業の動向

- 2014年頃より、日本におけるベンチャー市場は、第四次ベンチャーブームに突入。
- ベンチャー企業の資金調達は一・マンショック以降、着実に増加しており、政策面での支援も充実。

日本のベンチャー企業の歴史

1970年頃～	第一次ベンチャーブーム <ul style="list-style-type: none">● 研究開発型ハイテクベンチャーが誕生
1980年代前半	第二次ベンチャーブーム <ul style="list-style-type: none">● 製造業中心の産業構造から、流通・サービス業が拡大● プラザ合意(1985年)後の円高不況に伴い衰退
1995年頃～	第三次ベンチャーブーム(ネットバブル) <ul style="list-style-type: none">● 民間ベンチャーファンド設立増加● 東証マザーズ(1999年)、大証ナスダックジャパン(2000年)スタート● リーマンショック(2008年)により低迷
2014年頃～	第四次ベンチャーブーム(現在) <ul style="list-style-type: none">● 「日本再興戦略」による政策支援● CVC、オープンイノベーション活性化

日本におけるベンチャー企業の資金調達状況



(出所: ジャパンベンチャーリサーチ「未公開ベンチャー企業の資金調達の状況」)

ベンチャー支援に向けた政策目標

「ベンチャーチャレンジ2020」における設定目標

- 米国・英国レベルの開業率・廃業率10%台を目指す。
- 起業活動指数を今後10年間で倍増させる。
- ベンチャー企業へのVC投資額の名目GDP比を2022年まで倍増することを目指す。

(出所: 経産省「ベンチャー・チャレンジ2020」)

ベンチャー企業を巡る日米の比較

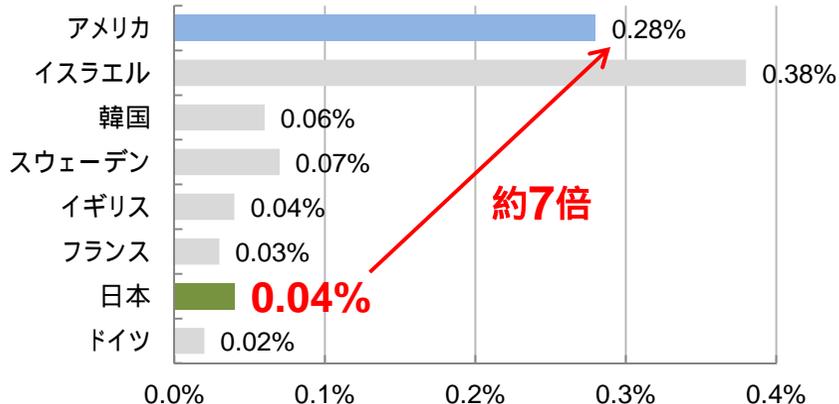
- 米国のVC投資は日本の約40倍。対GDP比のVC投資では、米国は日本の約7倍の水準。
- また、米国ではベンチャー企業が経済を牽引。日本経済の更なる成長に向け、ベンチャー企業の成長支援やイノベーション促進は重要な課題。

VC投資額の日米比較



(ジャパンベンチャーリサーチ資料をもとに弊社作成
日本は2014年度、米国は2014年実績、単位: 億円、1USD = 100円にて換算)

GDP比VC投資比率の国際比較



(出所: 経産省「ベンチャー・チャレンジ2020」)

経済を牽引する米国ベンチャー企業

米国における時価総額 上位10社

企業名	時価総額
Apple	61
Alphabet (Google)	54
Microsoft	45
Amazon	38
Facebook	37
Berkshire Hathaway	36
Exxon Mobil	35
Johnson & Johnson	33
General Electric	27
AT&T	25
合計	391

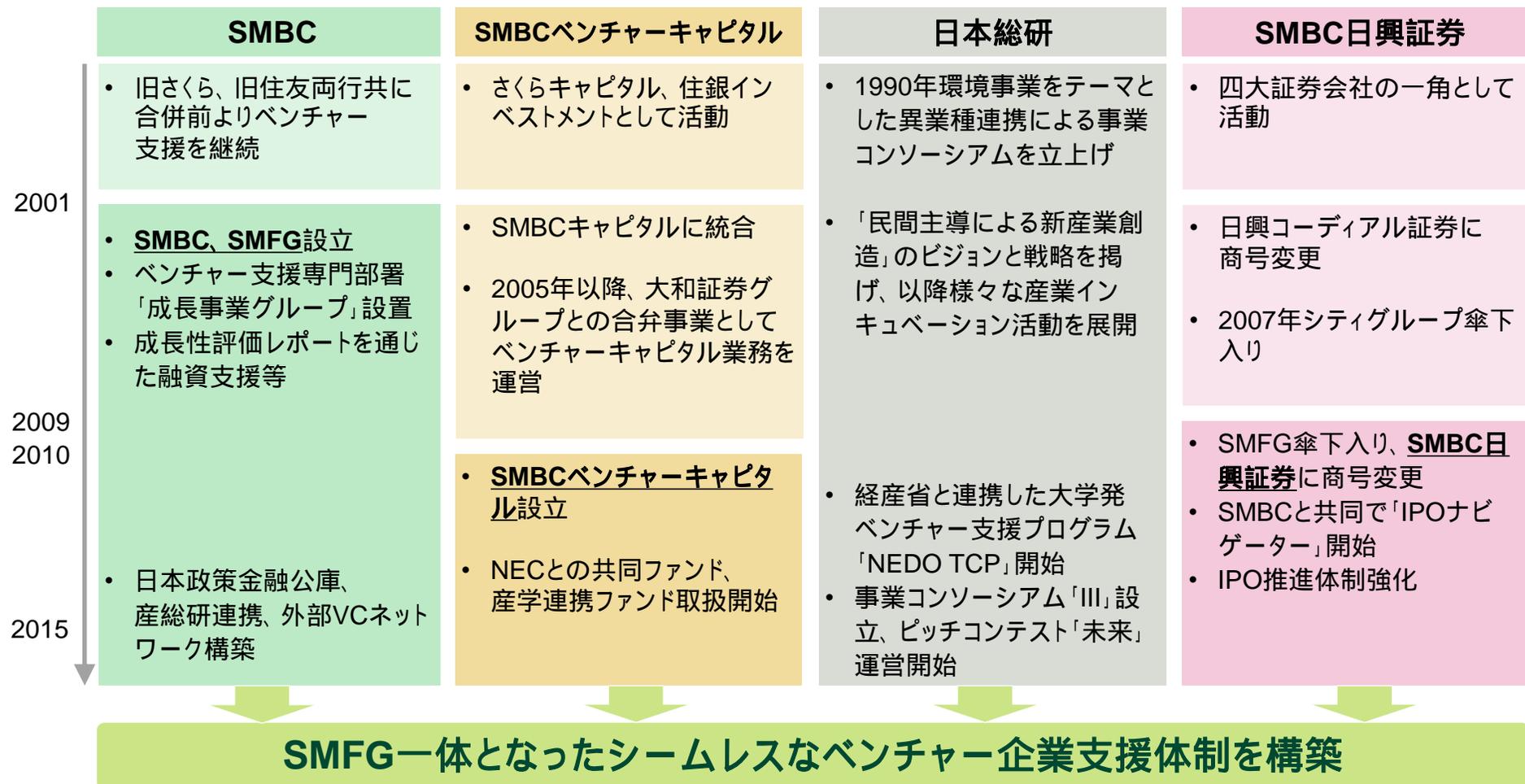
日本における時価総額 上位10社

企業名	時価総額
トヨタ自動車	20
NTTドコモ	10
日本電信電話	10
KDDI	8
日本たばこ産業	8
ソフトバンク	8
MUFG	7
日本郵政	6
ゆうちょ銀行	6
本田技研工業	5
合計	88

(公表資料をもとに弊社作成、単位: 兆円、2016/10/5時点、1USD=100円で換算)

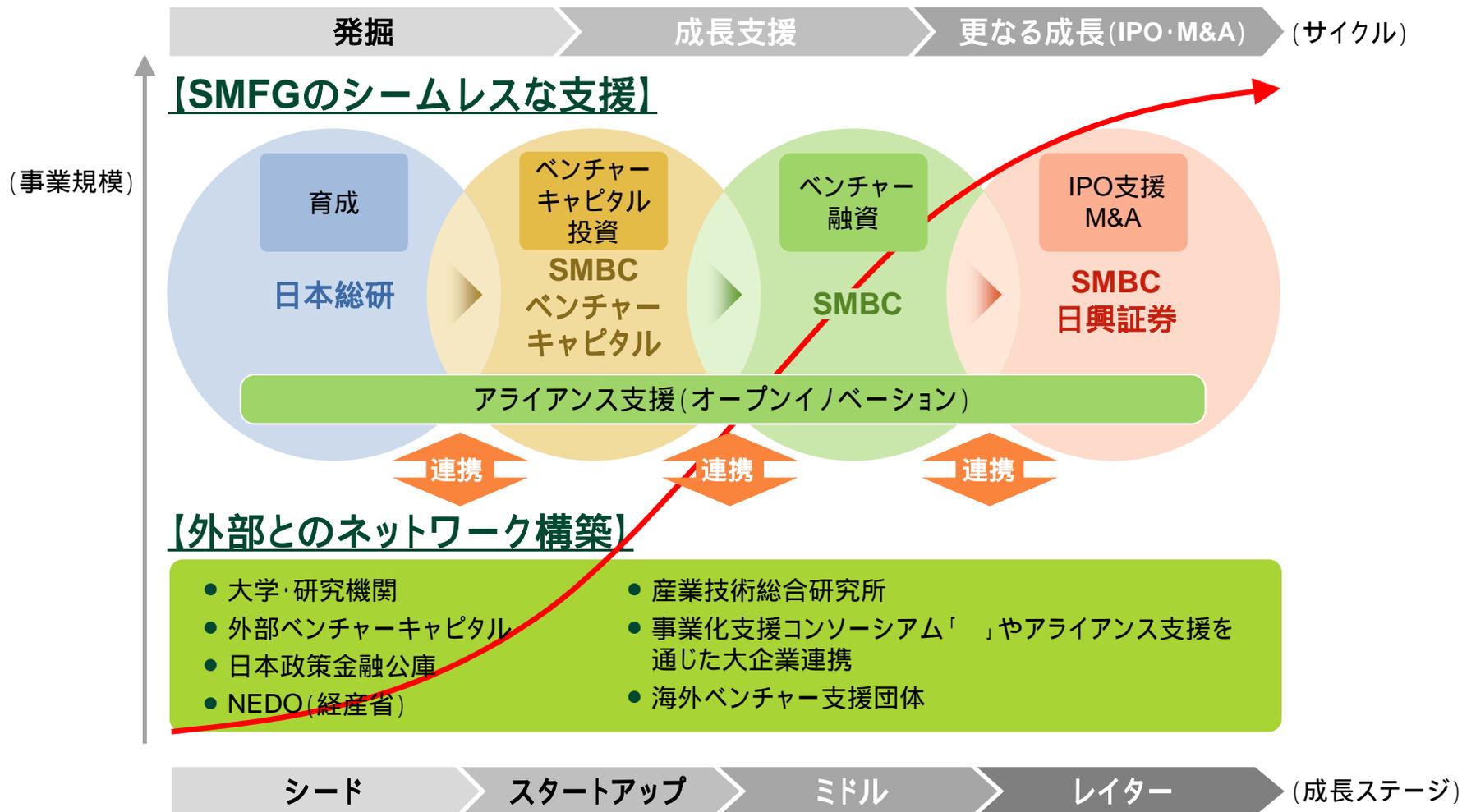
SMFGのベンチャー企業支援の変遷

- SMFG発足以前より、各社の機能を活かしたベンチャー支援を過去より実施。
- 過去からの取組実績と蓄積してきた知見を活かして、グループ連携を更に強化することで、SMFG一体でベンチャー支援を行う体制を構築。



SMFGのベンチャー企業支援体制

- SMFGベースでのシームレスなベンチャー支援に加え、外部のベンチャー支援機関等とのネットワークを積極的に構築。



SMFGグループ各社による主要なベンチャー支援実績

- SMFG各社の機能を活用し、ベンチャー企業の成長ステージとニーズに応じて、グループ一体で支援。

日本総研: 育成

- 大学発ベンチャーの事業化支援プログラム「**NEDO Technology Commercialization Program (NEDO TCP)**」
- 異業種連携の事業コンソーシアム「**Incubation & Innovation Initiative (III:トリプルアイ)**」
- ピッチコンテスト「**未来**」

SMBCベンチャーキャピタル: ベンチャー投資

- 大学や研究機関等の技術シーズ事業化を支援する「**産学連携ファンド**」設立
- 2015年度投資件数 **約 80件**

SMBC: ベンチャー融資

- 「成長性評価レポート」を活用した関連融資(2010~2015年度の融資金額)

約 1,200億円

SMBC日興証券: IPO支援

- SMFG(日興・フレンド)主幹事実績(2015年暦年ベース)

合計 26社、業界 2 番手

- 会員制無料情報提供サービス「IPOナビゲーター」会員数

約 1,300社

SMBC: アライアンス支援

- 大企業とベンチャー企業とのアライアンス支援

年間 400件以上

- 「未来オープンイノベーションミートアップ」

累計 5回開催

外部ベンチャーキャピタル等との連携

- テクノロジー、情報、大学発、アグリ、バイオ・ヘルスケア等業界セクター毎に専門知見のあるベンチャーキャピタル等とのネットワークを積極的に構築。

主要な投資先ベンチャーキャピタル

分野	連携先
テクノロジー	テックアクセルベンチャーズ 「テックアクセルファンド」 (オムロン・リコーの共同ファンド)
	スパークス・グループ 「未来創生ファンド」 (トヨタ自動車との共同ファンド)
	NECキャピタルソリューション
情報	インキュベイトファンド
	GMOベンチャーパートナーズ
	オプトベンチャーズ

分野	連携先
大学発	東京大学エッジキャピタル
	「官民イノベーションプログラム」に基づく国立大学ベンチャーキャピタル
	慶應大学イノベーションイニシアティブ
アグリ	日本戦略投資 「SMBCアグリファンド」
バイオ・ヘルスケア	ファストトラックイニシアティブ

計20以上のベンチャーキャピタルへの出資を通じて、有望なベンチャー企業のソーシングや資金調達ニーズのあるベンチャー企業の紹介等に活用

政府関係機関等との連携

- 日本政策金融公庫他ベンチャー企業支援に関連する政府機関等との業務連携を通じて、ベンチャー企業支援体制を強化。

日本政策金融公庫

- 2014年7月に、ベンチャー企業支援に関する業務連携の覚書を締結。
- ベンチャー企業の多様な資金調達ニーズに応じて、日本政策金融公庫が取り扱う「資本性ローン」を紹介。

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

- 大学発ベンチャーの事業化支援プログラム「NEDO Technology Commercialization Program (NEDO TCP)」で協働。

産業技術総合研究所

- 2,000人以上の技術研究員を抱える経産省 / 産業技術総合研究所とベンチャー企業に事業化支援に係る連携協定を締結(2015年7月)。

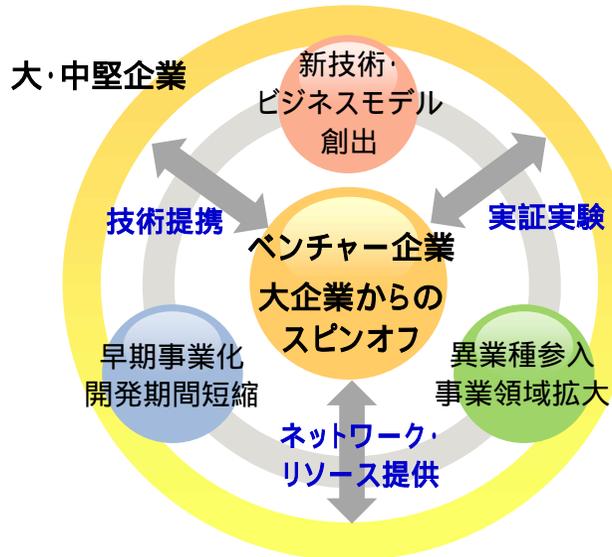
海外

- 米国ロボット業界団体「Silicon Valley Robotics」、研究機関「SRI International」と業務提携。日本企業への橋渡しをサポート。

オープンイノベーションに対するニーズの増大

- 大・中堅企業によるベンチャー企業とのオープンイノベーションに対するニーズが増大する中、SMFGベースで積極的に支援。

オープンイノベーションのイメージ



大・中堅企業

新規事業開発にあたり、自社内の既存技術やビジネスモデルに捉われないイノベーションに向けた取組みが必要

ベンチャー企業

新技術・ビジネスアイデアはあるが、ヒト・モノ・カネが足りない

双方のリソースを開示し新たなビジネス・付加価値を創出

SMFGの主な支援体制

「Incubation & Innovation Initiative (III:トリプルアイ)」



- SMBCと日本総研で協働して立ち上げた、オープンイノベーションの支援を目的とした異業種連携の事業コンソーシアム。

ピッチコンテスト「未来」



- 全産業を対象としたスタートアップ企業向けピッチコンテスト。

「未来」オープンイノベーションミートアップ



- ミドル・レイター層のベンチャー企業を主な対象としたピッチイベント。特定の大・中堅企業が発信する自社ニーズや戦略課題に対して、ベンチャー企業がプレゼンを実施。

個別アライアンス支援

「未来オープンイノベーションミートアップ」

- 大・中堅企業の新規事業支援とベンチャー企業のトップラインへの貢献を目的としてオープンイノベーションを積極的に支援。昨年より累計5回に亘り、ミートアップイベントを開催している他、年間400件を超える大企業とベンチャーの個別アライアンスをサポート。

SMFG

日時・場所	2015年9月16日 SMBC 本店東館
テーマ	新たなリテールビジネス創出に向けSMFGで活用可能なICT技術・ソリューション
登壇ベンチャー事業	人工知能、ロボアドバイザー運用支援、スマートフォンアプリ検証ソフト、物価・不動産価格情報分析、インデックス生成、家計簿アプリ、生体認証、プライベートクラウド等

生体認証技術ベンチャーとSMBCで実証実験継続中

三井化学

日時・場所	2016年9月5日 SMBC 本店東館
テーマ	三井化学よるオープンイノベーションを活用した新たな顧客価値の創造
登壇ベンチャー事業	環動高分子ゲル、3Dプリントプラットフォーム、モバイル型プラント開発、人感センサ、パーソナルモビリティ、農業プラットフォーム、調音パネル開発、家庭用ロボット等

オムロン・リコー

日時・場所	2016年2月25日 SMBC 本店東館
テーマ	オムロン・リコーによるテック系ベンチャー企業とのオープンイノベーション
登壇ベンチャー事業	生体認証、薄膜電力線センサ、クラウド型ビデオプラットフォーム、人感センサ応用システム、学習型汎用人工知能、エイジングケア化粧品、高性能RFIDタグ、CMOSイメージセンサ、360°VR、ロボット等

未来 Open Innovation Meet up

「未来オープンイノベーションミートアップ」の様子(2016/9月)



オープンイノベーション支援を通じて金融機関が果たす役割

ベンチャー企業

【ニーズ・課題】

- 新技術・ビジネスアイデアはあるが、ヒト・モノ・カネが足りない。
- 大企業との取引は、信用力を高める手段として有効だが、大企業とのネットワークが充分なく、キーパーソンに辿り着けない。敷居が高い。
- 売上高引上げが急務。

SMFGの役割

【強みとソリューション】

ベンチャー～大企業まで含む幅広い顧客ネットワーク

ベンチャー企業のビジネスモデルや技術に対する目利き

コンソーシアム、親密VC等のネットワークを活用したソーシング力

決済、融資、投資、IPO支援等グループ総合力を活かした支援

大・中堅企業

【ニーズ・課題】

- 新規事業立ち上げに向け、自社内の既存技術やビジネスモデルに捉われないイノベーションに向けた取組みが必要。
- 事業環境が大きく変化する中、スピーディーな開発や事業化が必要。
- ベンチャー企業の事業内容や技術の有効性は検証しづらく、アプローチが難しい。

「精度の高いアライアンス提案」を通じたベンチャー企業・大企業双方における成長支援と事業イベント創出、金融ニーズへの対応

(参考)次世代自動車プロジェクトチームの活動

- 自動車業界では、テクノロジー、車の活用方法、競合関係等において経営環境が激変。
- 従来のサプライチェーンを超えた異業種やベンチャー企業との新たな協業関係の構築を支援する目的で、「次世代自動車プロジェクトチーム」を2016年4月に立ち上げ。

自動車業界における3つの大きな変化

テクノロジーの変化

- Electrification
(EV、FCVなど、パワートレインの電動化技術)
- Automation
(自動運転技術)
- Connectivity
(通信技術を活用した外部と“つながる”技術)

競合関係の変化

- メガサプライヤーによるOEMの付加価値領域での競争と協調
- ソフトウェアによる車の魅力度向上
- 異業種企業の参入(EV、自動運転)
- スマート工場、製造受託事業者の台頭による製造工程の付加価値低下

社会における車の活用の変化

- パーソナルモビリティ
- シェアドモビリティ(カーシェア、ライドシェア)
- インターモーダル連携(鉄道、バス、自転車)

業界横断的かつグローバルベースの顧客基盤と情報ネットワークを活用し、イノベーションに繋がるアライアンス提案を通じて、新たなビジネス創出を支援

「ベンチャーエコシステム」の構築に向けて

- 「イノベーションを支えるSMFG」として、日本における「ベンチャーエコシステム」構築に向けて活動。

イノベーションを支える SMFG

日本総研
事業コンソーシアム
(III(トリプルアイ))、
ベンチャーキャピタル
事業法人

SMBC日興証券
(IPO支援)

大企業アライアンス
(オープンイノベーション
ミートアップ)

更なる成長
(IPO・M&A)

ベンチャー
発掘

SMFG

ベンチャー
育成

海外ベンチャー支援団体

大学・研究機関等
大学系ベンチャーキャピタル

SMBCベンチャーキャピタル
(産学連携ファンド)

日本総研
ピッチコンテスト(未来)
事業化支援プログラム
(NEDO TCP)

外部ベンチャーキャピタル

ベンチャー融資
(成長性評価レポート、
日本政策金融公庫)

2 . 「Incubation & Innovation Initiative (III:トリプルアイ)」、「未来2017」について

日本総研のインキュベーション活動の実績

- 日本総研では、1990年代からインキュベーション活動を精力的に実施。
- コンソーシアムを通じて自らベンチャーを設立するとともに、多数の大学発ベンチャーを支援。

日本総研によるコンソーシアムとベンチャー設立

コンソーシアム名称	活動を通じて設立したベンチャー
原位置ガラス固化 コンソーシアム (1990年設立、12社参加)	(株)アイ・エス・ブイ・ジャパン
省エネルギーサービス事業 コンソーシアム (1995年設立、15社参加)	旧(株)ファーストエスコ (現(株)エフオン) 2005年東証マザーズ、 2016年東証1部上場
ESP (Energy Service Provider) コンソーシアム (2001年設立、36社参加)	(株)イーキュービック ((株)エナリスに合併)

その他、約30コンソーシアムを立ち上げ、
1,800社以上の企業とインキュベーション活動を実施。

大学発ベンチャー支援 (NEDO TCP : 2014年 ~)



(出所: http://nedo-tcp.jp/NEDO_TCP/)

運営	【主催】NEDO、日本総研 【協力】SMBC、カピオン、SRI International、 パソナテック
概要	起業家、起業家予備軍、起業意識のある若手 研究者等を対象に以下の機会を提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 技術シーズの事業化に必要な知識を提供する「教育プログラム」の提供 ● 専門家によるビジネスプラン作成支援、 メンタリング ● ビジネスに結び付けるための大企業・ ベンチャーキャピタル等へのビジネスプラン 発表、ネットワーキングの提供
実績	ベンチャーキャピタル出資受入れ: 10社以上 政府補助金等受入れ: 7社以上

「Incubation & Innovation Initiative」概要

- オープンイノベーションの実現に向けて、2016年2月にSMFG主導で、事業コンソーシアム「Incubation & Innovation Initiative」(III:トリプルアイ)を立ち上げ。
- 各業界、業種のリーディングカンパニーがコンソーシアムメンバーとして参画。ベンチャー支援に積極的な自治体等と幅広く連携。

「Incubation & Innovation Initiative」概要



日本の成長戦略の基盤となる、先進性の高い技術やビジネスアイデアの事業化を支援する、国内初の異業種連携の事業コンソーシアム

活動内容

既存企業のスピンアウトやカーブアウト、ベンチャー企業の事業化支援	ピッチコンテスト「未来」
コンソーシアムメンバー・ベンチャー企業による共同研究・新規事業開発	各種研究会
法制度調査研究、政策提言	

現在運営中の研究会

- ブロックチェーン研究会
- ロボット・AI・IoT研究会
- 次世代モビリティサービス研究会
- 次世代都市開発研究会

構成メンバー

(企画・運営) 日本総合研究所

(プレミアムメンバー) SMBC

コンソーシアムメンバー

日本電気(NEC)、トヨタ自動車、三井住友海上火災保険、関西電力、講談社、住友商事、SMBC日興証券

III協賛・後援メンバー

海外需要開拓振興機構、産業技術総合研究所、大阪大学ベンチャーキャピタル、神戸市、サイエスト、日建設計総合研究所、福岡地域戦略推進協議会、メイテック、医療みらい創生機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

「未来2017」後援メンバー

復興庁、兵庫県、福岡市、山梨県、大阪市

ピッチコンテスト「未来」概要

- 「Incubation & Innovation Initiative」の活動の一環として、スタートアップ企業を対象としたピッチコンテスト「未来」を定期的に開催。



未来
2017

<http://mirai.ventures/>

二次審査会のご案内

日時：2016年12月20日(火)

会場：三井住友銀行 本館・東館ライジングスクエア

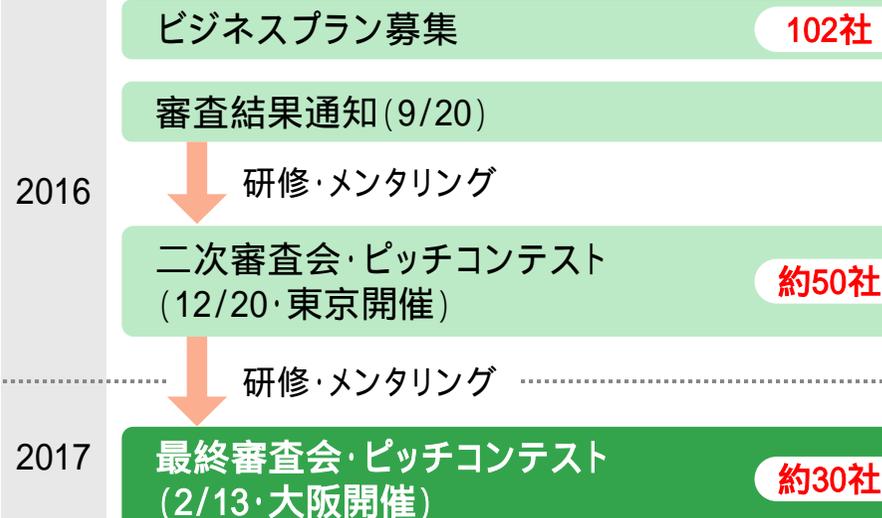
セミファイナリストによるピッチ

ブース展示

応募資格

- シード・アーリーステージにあるスタートアップ企業
 - 企業における研究や新規事業のスピナウトを考えている方、既にスピナウトした方・企業 等
- 会社設立の有無、補助金の獲得や出資の有無等を問わず募集。

スケジュール



ピッチコンテスト「未来」：プログラム概要と昨年度参加事例

- 「未来」では、各種研修プログラムやピッチの場を提供し、ベンチャー企業の成長を支援。

プロセス	プログラム概要	事例(C社:未来2016応募)
応募	<ul style="list-style-type: none"> ● SMFGが有するネットワークを活用し案件発掘 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「NEDO TCP2015」ファイナリストにも選出された意思決定支援に関するアルゴリズム・ソフトウェア開発ベンチャー企業。
集合研修 プレゼン研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修を通じたマインドセット ● 基礎的事項の講義 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本総研の紹介により「未来2016」に応募。 ● 複数のビジネスプランを検討しており、事業の方向性が固まっていなかった。
2次審査・展示会	<ul style="list-style-type: none"> ● 大企業や投資家向けピッチ・ブース展示機会提供、ベンチャーのマーケティング活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 20～30社程度とのマッチングにより顧客ニーズを把握。ターゲット・ビジネスモデル絞り込み。
集合研修 メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別課題に対するメンタリング ● ビジネスプランブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本総研でサービスを実際に導入しメンタリング。ビジネスプランのブラッシュアップと導入実績蓄積。
最終審査会	<ul style="list-style-type: none"> ● 大企業や投資家向けピッチ・ブース展示機会提供、ベンチャーのマーケティング活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● 優秀賞受賞により知名度向上。潜在顧客への信頼向上に繋がり、引き合い増加。 ● 提携先との実証実験やVC等からの出資検討。
実証実験サポート マッチング・ 協業支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同研究・実証実験のサポート ● コンソーシアムメンバーや大手企業との協業支援 ● 個別のコンサルティング ● 審査員が所属するVCやSMBCVC等からの投資 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本総研を含む大手企業複数社と実証実験開始。日本総研が解析拠点整備や顧客紹介で支援。 ● 国内有力VCからの出資受け入れ。

ピッチコンテスト「未来」:強みと特徴

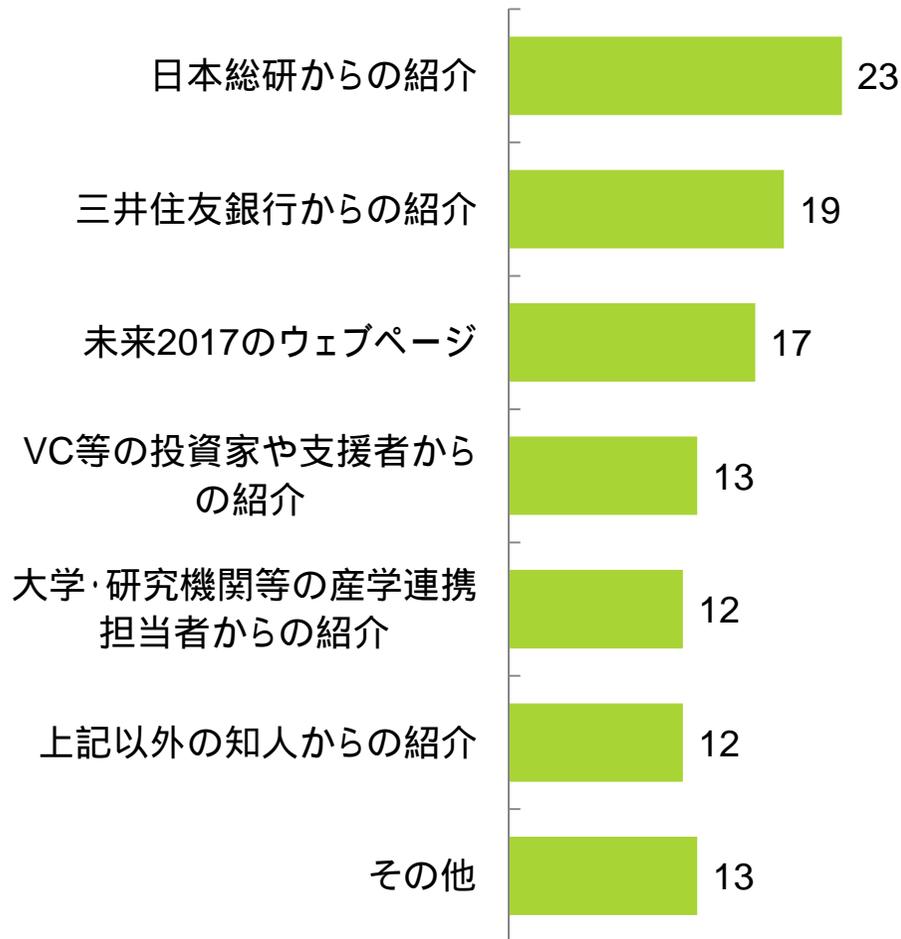
- SMFGや各コンソーシアムメンバーが有する産業界のアセット(ヒト・モノ・カネ・情報・技術)を活用し、実効性と訴求力の高いプログラムを構築。

<p>コンソーシアムメンバーの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各業界、業種のリーディングカンパニーがコンソーシアムメンバーとして参画。ベンチャー企業との幅広い連携が可能。 	<p>コンソーシアムメンバー社数 8社</p>
<p>ベンチャー企業へのアプローチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> SMBC、日本総研の有するネットワークを活用し、ベンチャー企業をソーシング。 ベンチャー企業支援に積極的な自治体とも連携。 	<p>応募件数 100件</p>
<p>業種横断的な募集テーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる業種を募集対象とすることで、幅広いベンチャー企業をソーシング。 	<p>募集テーマ数 25分野</p>
<p>サポート体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各分野で実績のある著名なベンチャーキャピタルのパートナーを審査員として招聘。 多様な専門性を持つアドバイザリーによる事業化支援。 	<p>審査員数 9人(2次審査会) アドバイザリー数 21人</p>
<p>イベント規模</p>	<ul style="list-style-type: none"> SMBC、日本総研のネットワークを活用し、全国からオーディエンスを募集することで、新たなビジネスに繋がる可能性を拡大。 	<p>オーディエンス数(未来2016) 1,000人以上</p>

(参考) ピッチコンテスト「未来」: スタートアップ企業へのアプローチと多彩な事業

- SMBC、日本総研の有するネットワークを活用し、案件を多数発掘。
- 全業種を対象とし、幅広い分野のスタートアップ企業をソーシング。

未来2017紹介者別応募件数(複数回答)



未来2017応募者の事業分野

メディカル・ヘルスケア	ロボット その要素技術	AI	IoT・センサー
ビッグデータ活用	セキュリティ セーフティ	シェアリング ビジネス	リテール テック
フィンテック	ブロック チェーン・ DAO	リーガル テック	ドローン
テレマティクス コネクテッド カー	クール ジャパン	VR/AR/ MR/Video	メディア エンター テインメント
アグリテック フードテック	エネルギー	革新材料	宇宙
インバウンド 観光	地方創生	ソーシャル ビジネス	レジリエンス (防災・減災 等)

(参考) ピッチコンテスト「未来2017」: サポート体制

- 各分野で実績のある著名なVCのパートナーを審査員に招聘。また多様な専門性を持つアドバイザーからなるサポート体制を構築。

未来2017 審査員(2次審査会) (敬称略、順不同)

東京大学エッジキャピタル	代表取締役社長 マネージングパートナー	郷治 友孝
ファストトラックイニシアティブ	取締役	安西 智宏
	プリンシパル	佐藤 正晃
インキュベイトファンド	代表パートナー	村田 佑介
グローバル・ブレイン	代表取締役社長	百合本 安彦

オプトベンチャーズ	代表取締役	野内 敦
	パートナー	細野 尚孝
	パートナー	菅原 康之
ユーグレナSMBC日興リバネスキャピタル	業務執行役	長谷川 和宏

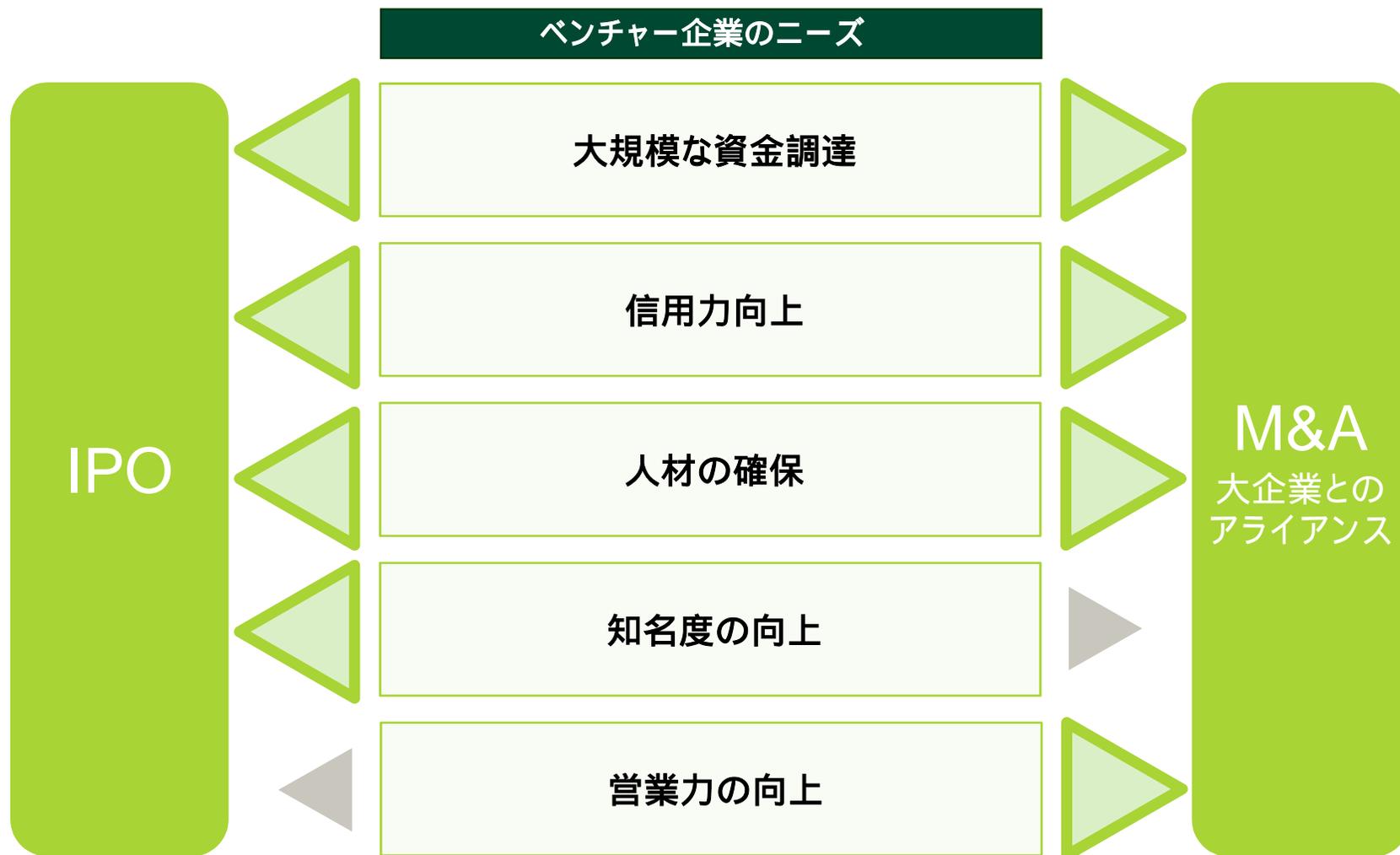
未来2017 アドバイザー (敬称略、順不同)

カピオン	代表取締役	曽我 弘
ベータカタリスト	代表取締役CEO	春田 真
SARR	代表執行社員	松田 一敬
Fenox Venture Capital	ベンチャーパートナー& シリアルアントレプレナー	田所 雅之
FinTech GlobalCapital, LLC	代表社員	本藤 孝
ボーダレス・プランニング	代表取締役	山本 辰久
ミレニアムパートナーズ	代表取締役パートナー	秦 充洋
MKマネジメント	代表取締役	三木 寛文
クリエイブル	代表	瀬川 秀樹

ダブル・スコープ	取締役	竹居 邦彦
日本医療機器開発機構	代表取締役社長	内田 毅彦
	経営企画室長	石倉 大樹
	取締役COO	虞都 韻
日本スタートアップ支援協会	理事	岡 隆宏
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 慶應藤沢イノベーションビレッジIM	インキュベーション マネージャー	廣川 克也
グローバルIoTテクノロジーベンチャーズ	代表取締役社長	安達 俊久
サイバーエージェント・ベンチャーズ	米国代表	南出 大介
東北大学研究推進本部URAセンター	特任准教授	中嶋 泰雄
グレートジャーニー合同会社	代表	安川 新一郎

3 . SMFGにおけるIPO支援について

- ベンチャー企業のニーズに対しIPO・M&Aというプロダクトを活用し成長の加速を促進。
- 次頁以降では特にIPOに関して言及。



- 旧四大証券時代から続く営業基盤と、メガバンクの顧客基盤を併せ持つ、本邦唯一の証券会社。



旧四大証券としての 強固な営業基盤

- IPO業務における経験・ノウハウの蓄積
- エクイティの販売に精通したセールス
- 全国ネットワークを有する支店網
 - － 富裕層を中心とした個人顧客基盤



メガバンクSMBCが 有する顧客基盤

- SMBCの支店網を活用した、全国規模でのIPO候補企業とのリレーション
- 豊富なSMBC個人マネーへのアクセス

- SMBCとSMBC日興証券が共同して行うIPOサポートの一つがIPOナビゲーター。ここからIPOを実現した企業も多数生まれている。

IPO NAVIGATOR IPOナビゲーター

SMBCと共同で企画・運営を行う、IPOを目指す企業のための会員制・無料情報提供サービス

- IPOを目指す会員に対して、IPO関連の専門ノウハウを有するアドバイザー企業とも連携し、メールマガジンやセミナーなどを通じIPOに役立つ情報を提供
- 2010年7月サービス開始、会員数約1,300社(2016年9月16日現在)
 - SMBC日興証券主幹事による上場実現社数32社

共同企画・運営



三井住友銀行



SMBC日興証券

業務委託



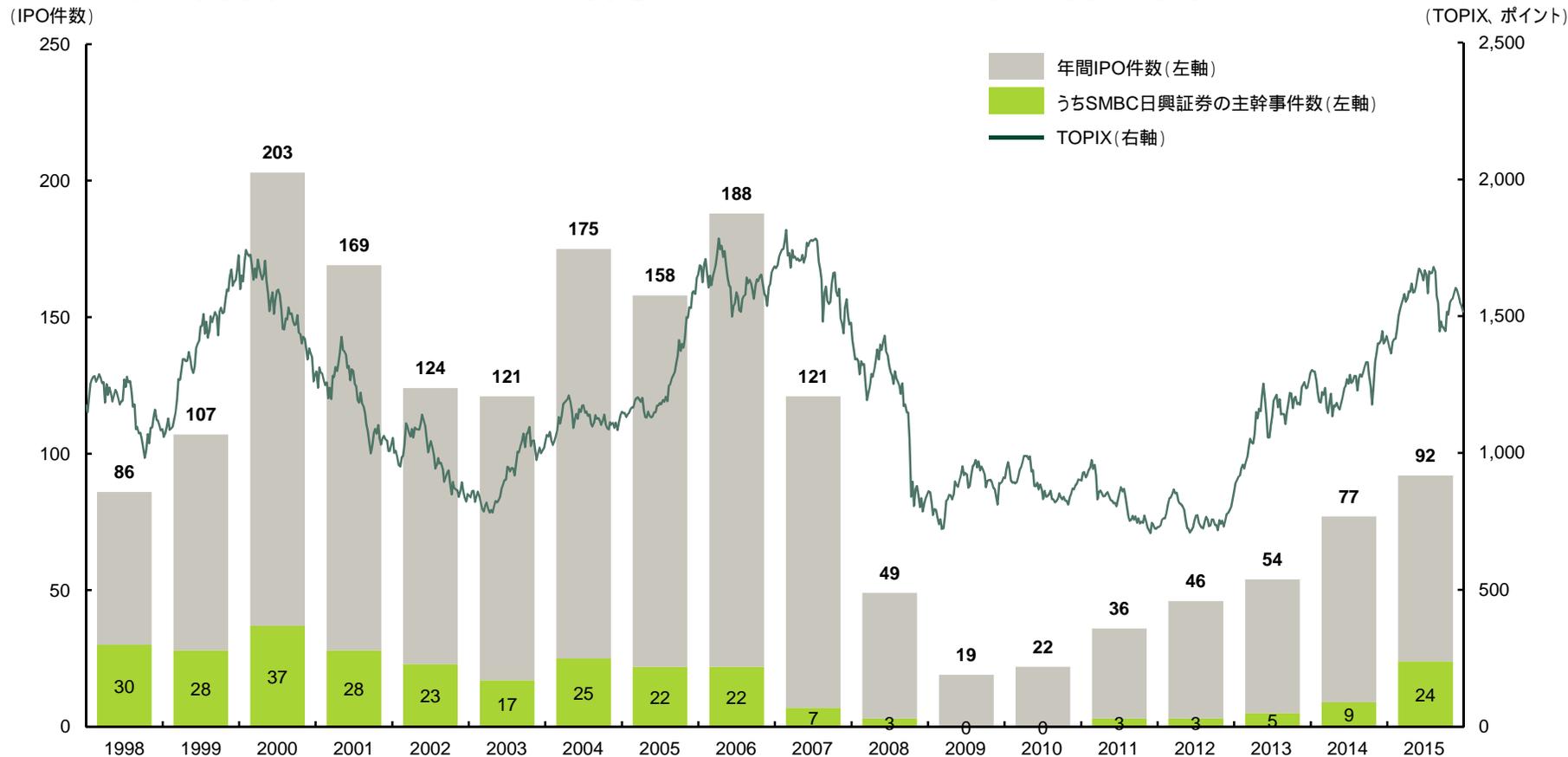
日興アイ・アール

アドバイザー企業

- SMFG
 - 日本総合研究所
 - 三井住友カード
 - SMBCコンサルティング
 - SMBCベンチャーキャピタル
- 監査法人
 - 新日本有限責任監査法人
 - 有限責任監査法人トーマツ
 - PwCあらた有限責任監査法人
- 政策金融機関
 - 日本政策金融公庫
- 証券代行
 - 三井住友信託銀行
- 印刷会社
 - プロネクサス
 - 宝印刷
- ✓ 協賛企業
 - 日本取引所グループ

IPO市場とSMBC日興証券のIPO主幹事実績

- IPO件数はリーマンショックで落ち込んだ後、再び増加傾向。
- 2007年以降低迷していたIPO主幹事実績はSMFG入り後に再び順位を上げている。



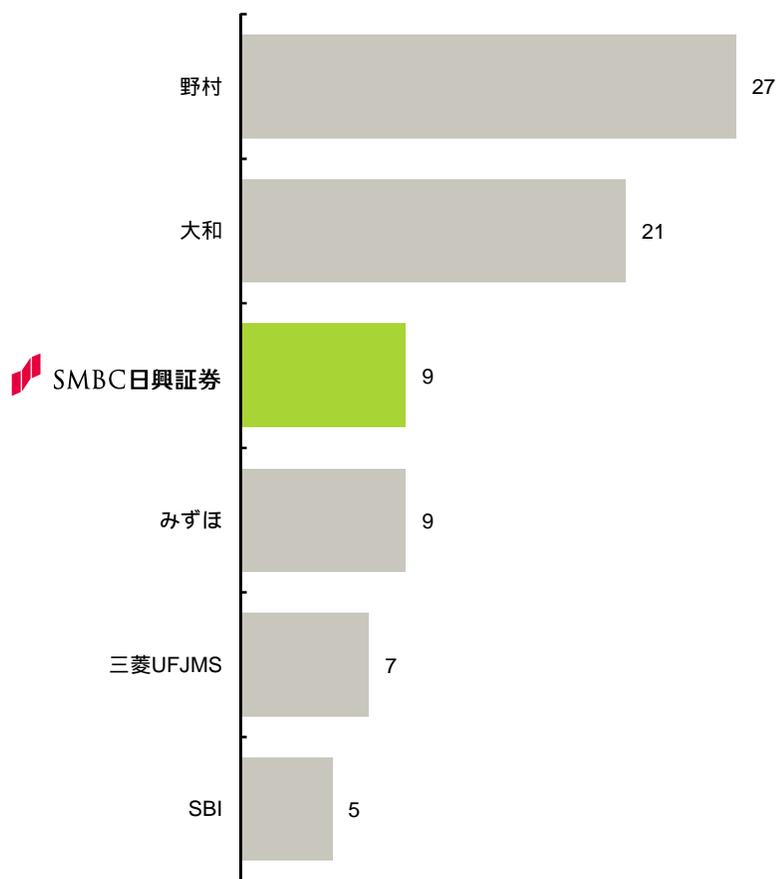
順位	1	2	3	3	2	3	2	3	3*	6	6	-	-	4*	4*	5	3*	2
沿革	1999年3月 シティグループとの合併による、日興ソロモン・スミス・バーニー証券会社(後の日興シティグループ証券)営業開始								2007年5月 シティグループの子会社となる(後に完全子会社化)		2009年10月 SMBCによる完全子会社化		2011年4月 SMBC日興証券に社名変更					

注: 順位の実績は当該順位の証券会社が複数存在、共同主幹事件の場合は各主幹証券にカウント、経由上場・TOKYO PRO Market・J-REITを含まず
 出所: Bloomberg、公表資料に基づきSMBC日興証券作成

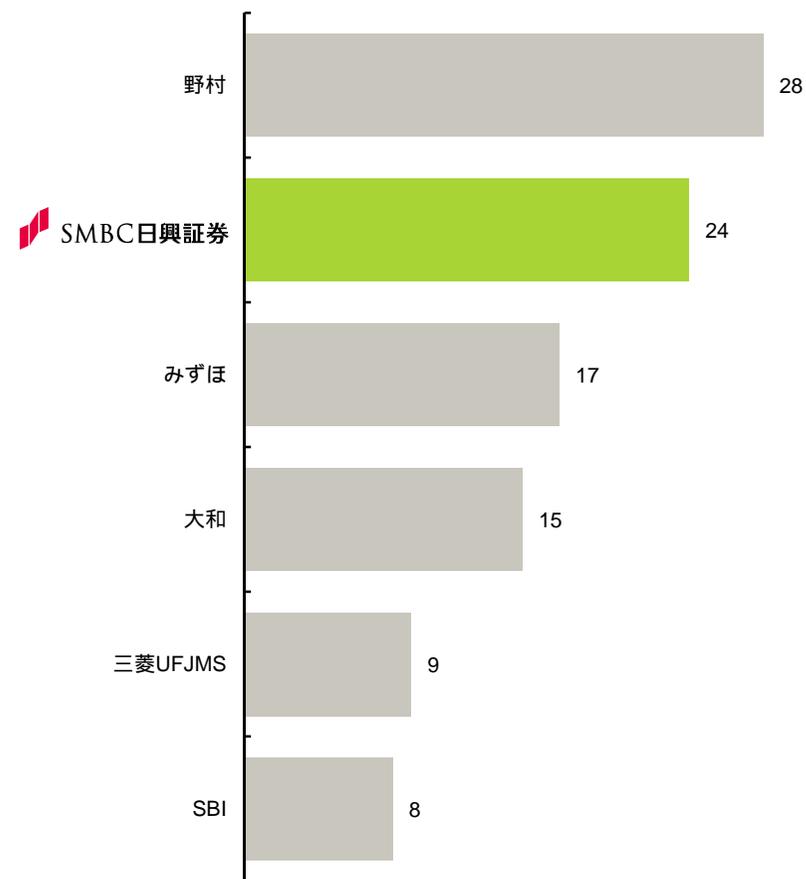
IPO主幹事実績の推移

- IPO主幹事件数の実績は着実に積み上がっており、2015年の実績は第2位。

2014年IPO主幹事件数



2015年IPO主幹事件数

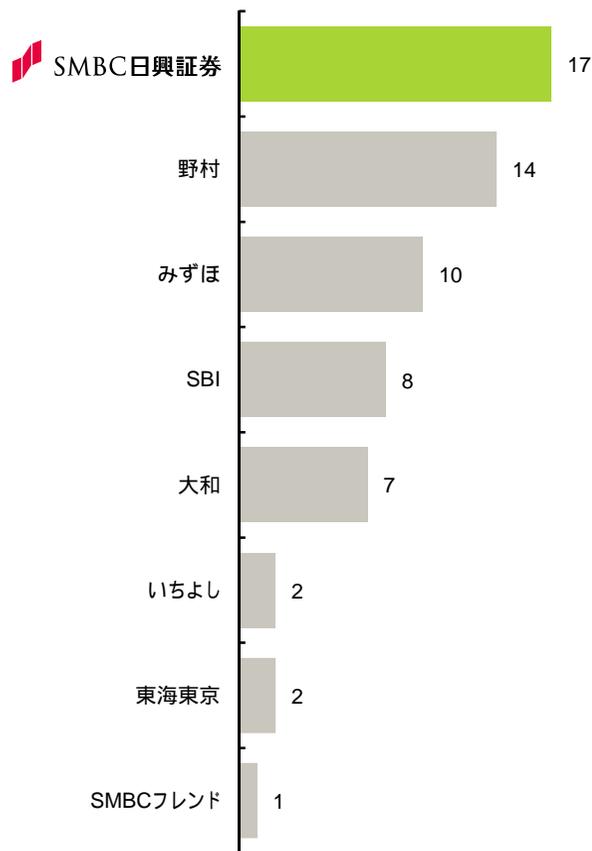


注：共同主幹事件の場合は各主幹証券にカウント、経路上場・TOKYO PRO Market・J-REITを含まず
出所：公表資料に基づきSMBC日興証券作成

2015年マザーズ市場のIPO主幹事実績

- IPO主幹事件数の実績は、ベンチャー企業向け市場であるマザーズ市場において第1位(2015年)。

2015年IPO主幹事件数(マザーズ)



SMBC日興証券の2015年IPO主幹事銘柄(マザーズ)

アークン 2015年12月 7億円	鎌倉新書 2015年12月 5億円	ネオジャパン 2015年11月 7億円	ロゼッタ 2015年11月 2億円
バルニバービ 2015年10月 14億円	パートナー エージェント 2015年10月 8億円	STUDIOUS 2015年9月 11億円	メタップス 2015年8月 99億円
イトクロ 2015年7月 64億円	ファンデリー 2015年6月 8億円	マーケット エンタープライズ 2015年6月 7億円	ジグソー 2015年4月 6億円
sMedio 2015年3月 10億円	日本動物高度 医療センター 2015年3月 9億円	ハウストゥ 2015年3月 7億円	ヒューマンウェブ 2015年3月 7億円
コラボス 2015年3月 6億円			

注：SMBC日興証券の2015年IPO主幹事銘柄(マザーズ)はIPO時期、オフリング額を記載
出所：公表資料に基づきSMBC日興証券作成

本資料には、当社グループの財政状態及び経営成績に関する当社グループ及びグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。

多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。

また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。

実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。

国内外の経済金融環境の悪化、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収及び経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスク、不良債権残高及び与信関係費用の増加、保有株式に係るリスクなどです。

こうしたリスク及び不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。

当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。